

---

# ガルドラ龍神伝 闇龍編

新垣リタ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ガルドラ龍神伝 闇龍編

### 【Nコード】

N7964Z

### 【作者名】

新垣リタ

### 【あらすじ】

ここはゼテロイド系第一魔界ガルドラ。

砂・水・火・葉・氷・岩・風・華・雷・金・闇といった十一個の属性で成り立っているこの魔界に、突如異変が起きた。

謎の領主 キアの陰謀により、砂龍族の王女リタ姫は、北端の

領国 レザンドニウム の奴隷として拐われてしまう。

ここからリタ達奴隷戦士の運命が大きく変わろうとしている。

オリジナルファンタジー小説で、あたしのデビュー作品です。

まだ初心者なので、ストーリー構成があやふやな所や知識皆無などの至らない点が多々あると思いますが、暇を見つけて更新していきますので、閲覧の程よろしくお願いします。

尚、本編に登場する魔法の名前は全てあたしの創作です。

この作品はピクシブにも掲載しているので、良ければ探してみてください。

## プロローグ（前書き）

内容がちよっぴりダークなファンタジーなので、読む人を選ぶ可能性があります。

## プロローグ

（ああ……。また、この夢か。もう、この夢は見たくない）

ここは、ゼテロイド系第一魔界ガルドラ。別名 龍の魔界 とも呼ばれている。

その異名通り、ここには砂・水・火・葉・氷・岩・風・華・雷・金といった十属性の龍族が、住人の九割を占めている。

その龍達は 龍魔族 と呼ばれ、フィブラス砂漠に住む砂龍族を始め、様々な一族がそれぞれの村や街や森等に言語、宗教、習慣等共通の文化や住まいを持ち、王や族長に従いながら、九年間平和に暮らしていた。

が、突如、 魔道族 という一族の様子が変わった。彼らは通常、ガルドラの北端の領国 レザンドニウム に住み、龍魔族達を襲うことも一切なく、むしろ長い間龍魔族達と共存して暮らしていた一族である。だが、その一族がまるで狂ったように水龍族、火龍族、葉龍族の少年少女を各一人ずつ捕え、彼らの奴隷とした。そして、彼らは魔界の西北に位置する フィブラス砂漠 の砂龍王の城にも手を伸ばしていく。

「陛下、大変です。レザンドニウム領国の領主が、こちらに向かって  
いる模様です」

砂龍王に忠実な女性の近衛兵が、危険を察知し、彼に報告した。  
それを聞いた国王は、しばらく考えた。

（レザンドニウム領国の領主……。キアめ、この私に何を要求するつもりだ。どっちにしろ、リタや国民達を守らなくては）

既に三種族の龍魔族達が捕まっていることに不安を感じた国王は、国民達と自分の一人娘を避難させるよう、女性近衛兵に命じた。

その頃、王女のリタ姫は、自分の部屋で読書をしていた。

それにも関わらず、女性近衛兵は強行突破するようにして、姫の部屋に入った。

「セルセイン！ びっくりした……。私は別に部屋をロックしていないんだから、もう少し入り方を弁えてよ」

「申し訳ございません、リタ殿下。先程ランディー陛下からご命令がありました。あなたを安全な場所に連れて行きます」

女性近衛兵セルセインの言葉で、リタは動揺していた。彼女にとって、父王がこのような行動を起こすこと自体、有り得ないと思っていたからだ。

「父上が……。一体、何が起こってるの？」

リタの質問に対して、セルセインは簡単に答えた。

「レザンドニウムの領主が、こちらに向かっているのです」

（魔道族が……。でも、私達龍魔族と魔道族って、今まで共存して暮らしていたんじゃないかったの？）

セルセインの背に乗りながら、リタは疑問を浮かべた。

彼女達が外に出た時は、既に手遅れだった。レザンドニウム領国のキア領主が、数人の魔道師達を率いて、誰かが城の外に来るのを待っていたのだ。

彼らはセルセイんに、

「フィブラスの近衛兵よ。お前の背に乗っている幼女をこちらに渡せば、襲撃をやめてレザンドニウムに戻ろう」

と、脅迫めいた言葉を浴びせた。彼女も負けじと、領主に言い返す。

「誰があなた方のために、大切な魔族を渡すものですか。リタ様は将来、この国の女王になられるお方。私の命を犠牲にしても、守ってみせますわ」

セルセインは、なんとかして姫と一緒に逃げ延びようと、キアに攻撃魔法を仕掛けようとした。が、遠くから女性の声がした。

「セルセイン、無闇に攻撃魔法を使っではいけませんよ。自分の体力を大幅に削るだけですから」

「ですが、ジオ様。殿下をお守りするためには、これしか方法がないのです」

「そのようなことをすれば、憎しみが増えるだけだ。ここは私に任せろ」

ジオという女性の後から、リタの父親、砂龍王ランディーが城の

外に出た。

キア領主はやや動揺したが、なんとかいつもの冷静さを取り戻し、ランディー王に言う。

「おやおや。砂龍王直々にお出迎えとは、どういう風の吹き回しかな？」

「どうとでも言え。お前達が何を要求したいにしろ、国民達に手出しすることは絶対に許さない。無論、うちの一人娘にもな」

王は、緑色の目でキアをまっすぐ見つめ、反論した。が、彼の言葉に対し、キアは冷ややかに笑う。というより、彼ははなから勝利を確信しているかのように笑っている。

「ほう。だが、その一人娘を盾に取られても、同じことが言えるかな？」

キアは余裕綽々な物言いだった。突如彼は、王達の目の前から姿を消した。と、同時に、セルセインが背負っている少女が空中に浮いた。

彼女の体はまるで、操り人形のように軽く持ち上げられ、魔道族の輪の中に行った。

幼い王女を人質に取られ、一般の砂龍達はただおろおろするばかりだ。

「お前達は、何を企んでいるのだ！ リタをどうする気だ？」

「我々魔道族の目的は、この幼い王女を我が領国の奴隷とすることだ。他の一族への見せしめのためにな」

そう言っ<sup>て</sup>キアは、そのまま王女をガルドラの最北端 レザンド  
ニウム へ連れて行<sup>っ</sup>てしま<sup>っ</sup>た。

後に残<sup>っ</sup>たのは、砂龍王と兵士達、そして青く広がる砂漠のみだ  
っ<sup>た</sup>

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7964z/>

---

ガルドラ龍神伝 闇龍編

2011年12月25日17時50分発行